

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」長野駅前校		
○保護者評価実施期間	令和 7年 11月 1日 ～ 令和 8年 1月 10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	令和 7年 11月 1日 ～ 令和 8年 1月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 1月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別での対応が多いことから、丁寧なアセスメントができることが強みです。	アセスメントを実施する際には、児発管が実際のお子さんの姿や保護者様からの聞き取り、支援の中で深い関わりを持っている支援担当者、お子さん自身からの聞き取りを行うことで、精度の高いアセスメントとなるよう取り組んでいます。	これまで、幼稚園、保育園への訪問も取り入れて、お子さんの姿を拝見してきました。今後はさらに、それぞれの場所においてのお子さんの姿を共有していけるよう取り組んでまいります。
2	個別療育から、小集団療育への移行が行いやすいところが強みです。	まずは、個別療育からスタートしていき、お子さんの発達段階に合わせた課題に取り組んでいます。お子さんの様子を見ながら、小集団療育への移行を行い、その中での発達課題を見出し、大きな集団への参加へとつなげていけるようサポートしております。	小集団活動への不安があるお子さんには、離れたブースから様子を見学したり、個別療育の中で、小集団活動の流れを体験する機会を持つなど、参加してみたいという気持ちを引き出していけるよう取り組んでまいります。
3	支援を受けるお子さんにとって、刺激の少ない環境を用意し、お子さんに合わせて視覚的なサポートも行っていることが強みです。	支援で使用するスペースは、壁面や装飾のない壁、パーテーション等を用いて、刺激のコントロールを行っております。支援ブースを区切ることで、集中しやすい環境を整えています。	お子さんの様子に応じて、安心し集中して活動に取り組めるよう環境を調整してまいりました。今後も、お子さんの状況に応じて、音や光等の目や耳からの刺激を調整するなど、工夫して取り組んでまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域の方々は活動に参加する機会の提供	主に、個別支援を提供しているため、地域資源との関りや繋がりのニーズが希薄でした。	「きらり」を利用しているお子さんの保育園・幼稚園への訪問は、実施しているため、関係のある期間との交流を行えるよう取り組んでまいります。また、地域に開かれた事業所であるよう、地域の方々との交流を検討してまいります。
2	ご家族に対する家族支援プログラムや、家族等も参加できる研修会等の提供	今年度は、保護者様向けのペアレントトレーニングや、ママカフェの準備が間に合わず、年度末での実施予定となってしまいました。	今後は、年度初めの段階で、年間計画を行い、児発管と、担当職員とで準備を進めていき、実施回数を増やしていけるよう取り組んでまいります。
3	教室の環境整備	お子さんの特性や活動内容に応じて机の配置を変えたり、仕切りを利用して空間を調整することで、少しでも広く利用者様が活動を行える環境づくりが必要です。	仕切りや、机の配置等を検討することで、空間の調整を行い、利用者様が安心して活動に向かえる環境づくりに努めてまいります。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」長野駅前校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数

7名

回収数

7名

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7	0	0	0	静かで良いです（1名）。	ご意見をいただき、ありがとうございます。今後も、お子さんが過ごしやすい環境を確保していけるよう取り組んでまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	7	0	0	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7	0	0	0		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7	0	0	0		
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6	1	0	0	職員間での連携が完全ではないと感じる時はあります（1名）。	ご意見をいただき、ありがとうございます。今後は、職員間での連携を万全に行っていけるよう、対応策について、事業所内で話し合っております。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7	0	0	0		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7	0	0	0		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	3	0	3	1		
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	0	0	0		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	7	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7	0	0	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	0	0	1		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7	0	0	0		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7	0	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	0	0	0		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	0	0	0		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7	0	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7	0	0	0		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	7	0	0	0	職員の皆様の温かい言葉掛けやご助言を受けて子どもが楽しそうに毎回通所しております。ありがとうございます（1名）。	私たち職員へ、励みとなりますお言葉をいただき、ありがとうございます。今後も、たくさんのお子さんや、ご家族の笑顔と出会えるよう、多くのことを学び、活かしていけるよう取り組んでまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」長野駅前校		2026 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		運動課題を行うにあたり、もう少し広いスペースがあると良いというご意見も多いですが、現時点では、限られたスペースを有効活用していけるよう、職員間で話し合いを行う工夫をしています。	今後も、可能な限り広くスペースを確保し、お子様が安全に過ごせるよう職員間で相談し合って取り組んでまいります。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		1対1での個別支援を行っているため、適切な職員体制を確保し、支援を行っております。	基本人員配置だけでなく、専門性のある職員による支援提供を今後も行っていけるよう取り組んでまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		入口に段差があるため、雨や、雪により、滑りやすくなっている際には、お気を付けいただくようお願いを行っております。	出入りの際には、職員がついてサポートを行い、安全にお子さんが来所できるよう努めてまいります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃や、年に2回の大掃除を実施するなど、清潔な環境で過ごせるよう心がけております。	使用後の教材や、机、いす等は、その都度消毒を実施しております。今後も、清潔を保っていただけるよう意識して取り組んでまいります。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個室はありませんが、パーティションを使用してブースを区切り、個別のブースを使用できるよう環境の調整を行っております。	お子さんの必要な配慮面を考慮して、予約人数の調整や、環境の調整等、工夫を行ってまいります。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		改善が必要な点に関しては、PDCAサイクルに沿って、職員間で相談しながら、改善を行っております。	PDCAサイクルを行うに当たっては、職員がそれぞれ主体的に関われるよう工夫してまいります。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年に1度、保護者様対象のアンケート調査を実施しております。結果を職員間で共有し、ご指摘をいただいた点に関しては、早急に改善できるよう対応しております。	アンケートでご指摘いただいた点については、上長へ相談を行い、改善していけるよう努めてまいります。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		全体での話し合いの場以外にも、個別で上長と、面談を行う機会を設け、意見を出しやすい環境調整を行っております。	今後も、現場からの意見に傾聴し、お子さんの支援だけでなく、職員の働きやすさについても相談し合える環境を整えてまいります。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現時点では、第三者による外部評価は行っておりません。	現在、第三者による外部評価については検討しております。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		東京の発達支援研究所の定例研修に毎月Zoomで参加をしております。その他にも、外部への研修にも参加しております。	今後も、利用者様のニーズに沿った外部研修へも積極的に参加する機会を設けてまいります。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		個別支援計画に基づき、適切な支援プログラムを作成し、公表しております。	今後も、個別支援計画に基づいた適切な支援プログラムを作成してまいります。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		半年に一度、アセスメントを行い、お子さんや保護者様のニーズや課題を明確にし、個別支援計画の作成をしております。	今後も、丁寧に適切なアセスメントを行い、お子様に沿った個別支援計画を作成していけるよう努めてまいります。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画の作成の際には、児童発達支援管理責任者と、担当職員とで相談を行った上で、事業所内での会議を開き、全職員の共通理解のもと、支援を行っております。	今後も、お子さんと現場職員からの意見を大切に、お子さんの成長や特性を把握した上で、適切な個別支援計画の作成を行ってまいります。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		毎月、事業所内支援者会議を行い、個別支援計画について全職員で共有しております。	事業所内支援者会議以外にも、必要に応じて、ミーティングを行うなど、細やかに対応していけるよう取り組んでまいります。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		お子さんの状況を把握するために、フォーマルなアセスメントと、インフォーマルなアセスメントの両方を使用しております。	より細やかなアセスメントを行うために、多角的な視点をもてるよう努めてまいります。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		左記のねらいや、支援内容を踏まえ、お子さんの支援に活かしております。個別支援計画の内容についても、具体的な支援内容を設定していけるよう努めております。	今後も、移行支援や地域支援では、関係機関との連携を行えるよう、支援者会議等での情報交換や書面での情報提供(保護者様の承諾を得て)を行ってまいります。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動プログラムについては、支援に当たる職員同士で情報共有を行い、支援プログラムの作成を行っております。	今後も、職員間で、支援のねらいや、支援方法のすり合わせを行ってまいります。

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎回のプログラムが固定化しないよう、支援に当たる際には、前回の内容について確認を行うようにしております。	今後も、活動記録の確認の実施と、次の支援担当者への伝達を行うことで、活動に広がりを持てるよう努めてまいります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		1人1人のお子さんの状況を踏まえて、個別・集団活動を組み合わせ、個別支援計画を作成しております。	今後も、お子さんの状況を踏まえた上で、個別・集団活動を組み合わせた個別支援計画を作成してまいります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼の際に、連絡事項とその日の支援についての確認を行っております。	今後も、支援前に、その日の支援予定について確認を行ってまいります。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		夕礼時に、その日のお子さんの様子について情報共有を行っております。	今後も、お子さんの状況を全職員が把握していけるようその都度、時間を設けてまいります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援後には、支援を行ったお子さんの支援記録の inputs を行い、次回の担当者へ情報が引き継げるようにしております。	今後も、支援記録を作成することで、お子さんの様子について、検証・改善につなげていけるよう努めてまいります。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に一度モニタリングを行っております。また、必要に応じて個別支援計画の見直しを行っております。	今後も、お子さんや保護者様のニーズに対応し、必要に応じて個別支援計画の見直しを行ってまいります。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		職員間でのお子さんの様子等について共有を行った上で、児童発達支援管理責任者または、担当職員が参加しております。	今後も、お子さんの状況を細やかに共有しながら、会議に参加してまいります。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校や幼稚園・保育園、医療機関などを交えて、支援者会議や情報共有を行い、連携をしております。	各機関から共有していただいた情報については、職員間でも情報共有を行い、支援につなげてまいります。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		事業所でのみの支援にならないよう、次への集団への支援を丁寧に行ってまいりました。連携会議や、訪問を通して、支援方法の共有も行っております。	今後も、関係機関との連携を深めていき、次の発達段階の社会生活へとつながるよう支援を行ってまいります。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		関係機関等で丁寧に情報共有を行い、相互理解が深まるよう移行支援者会議に参加しております。	今後も、丁寧に連携と情報共有を行い、相互理解が深まるよう移行支援者会議に参加してまいります。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		地域の児童発達支援センターに見学に行き、研修を受ける機会を持ち、連携を行っております。	研修で得た知識を、事業所間で情報共有を行い、どのようにして支援に取り入れていけるか検討してまいります。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	地域のこどもとの交流に関しては、現在行っておりません。	地域のこどもとの交流につきましては、現在検討中です。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		活動終了後のフィードバックの時間では、事業所での様子をお伝えするだけでなく、家庭・学校での様子をお聞きしたり、相談支援の時間に情報共有を行っております。	今後も、必要に応じて、お子さんの状況を踏まえ、それに応じた支援内容な対応について相談支援を行ってまいります。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		今年度は、2月～3月に開催を予定しております。	外部研修等で得た内容を活かして、保護者様向けのペアレントトレーニングを実施してまいります。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や、変更が起きたし際に、「利用者負担」等について、説明を行っております。	今後も、必要な場面において、「利用者負担」等について説明を行ってまいります。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別支援計画の更新の際には、保護者様とお話しをする機会を設け、お子さんと保護者様の意向をお伺いする機会を設けております。	今後も、個別支援計画の更新の際には、保護者様とお子さんから意向をお伺いする機会を設けていけるよう努めてまいります。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画を提示しながら、丁寧に説明を行い、同意をいただいております。	説明を行う際には、保護者様に支援の目標や具体的な活動内容が伝わるよう、丁寧な説明を心がけています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者様から相談があった際には、相談支援として面談の機会を設けるなど、必要な助言や支援を行っております。	今後も保護者様から相談があった際には、相談支援として面談の機会を設けていき、必要な助言や支援を行ってまいります。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		今年度は、2月～3月に開催を予定しております。	今後も、保護者様同士が交流する機会を設けていけるよう取り組んでまいります。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		お子さんや保護者様からお話があった際には、丁寧にお話しを伺う機会を設け、迅速に対応しております。	今後も、お子さんや保護者様からお話があった際には、丁寧にお話しを伺う機会を設け、迅速に対応しております。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		長野駅前校専用のInstagramや、ブログを定期的に更新し、活動の様子等を発信しております。	今後も、Instagramやブログを更新することで、活動の様子を発信してまいります。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の記載された書類等は鍵付きの書庫に保管し、個人情報の取り扱いに十分留意しております。	今後も、個人情報の記載された書類等は、鍵付きの書庫に保管し、個人情報の取り扱いに十分留意してまいります。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		お子さんや保護者様に伝わりやすいよう、文字だけでなく、イラスト等も使用して視覚的に伝える工夫を行っております。	保護者様には、ビジネスLINEを通してコミュニケーションを取るなど、一人ひとりに応じた配慮を行ってまいります。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	現時点では、地域の方々との交流は実施しておりません。	地域住民参加型のイベントを検討し、実施していけるよう取り組んでまいります。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルがあります。全職員が内容の確認を行い、共有しております。	今後も、マニュアルをもとに、毎月の防災訓練等を実施してまいります。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画(BCP)を策定しております。それをもとに、保護者様参加型で、非常伝達訓練を年2回(5月・1月)実施してきました。	今後も、業務継続計画(BCP)をもとに、非常伝達訓練等を実施してまいります。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者様より、事前に服薬状況や、健康状態について情報共有を行っていただいております。	今後も、服薬や受診等の情報共有を行い、お子さんが安全に事業所内で過ごせるよう努めてまいります。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	現在、事業所内で食事を行う機会がないため、医師の指示書をいただくことはありません。	全利用者様にアレルギーの確認を実施し、万が一の事態とならないよう、今後でも取り組んでまいります。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		非常時に必要な避難の方法を確認するとともに、毎月、安全点検を実施し、お子さんが安全に過ごせるよう取り組んでおります。	今後も、毎月の安全点検以外にも、必要に応じて、遊具や教室環境の確認を行い、安全な環境の中で、支援を提供していけるよう努めてまいります。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画を作成し、それに応じた研修を実施しております。研修の実施報告書につきましては、教室内に掲示を行い、保護者様への周知を行っております。	今後も、訓練内容や、研修の実施報告書等を、教室内に掲示したり、ビジネスLINEにて保護者様へ周知してまいります。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットが起こった際には、資料を作成し職員間で共有し、再発防止に向けての対策について話し合いを行ってきました。	今後も、ヒヤリハットが起こった際には、再発防止に向けての対策について、迅速に情報共有を行ってまいります。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		全職員が、虐待防止研修に参加しております。	今後も、全職員が、虐待防止研修に参加していけるよう体制を整えてまいります。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束が必要となる場合には(現在、対象者はおりません)、職員間で話し合いを行い、職員全体で共有し、個別支援計画に記載いたします。	契約時に、やむを得ず身体拘束を行う場合の説明を実施しております。そうならない為の支援を提供していけるよう取り組んでまいります。